

世界が進むチカラになる。



経済調査

欧州景気概況(2026年8月)

2026年8月4日

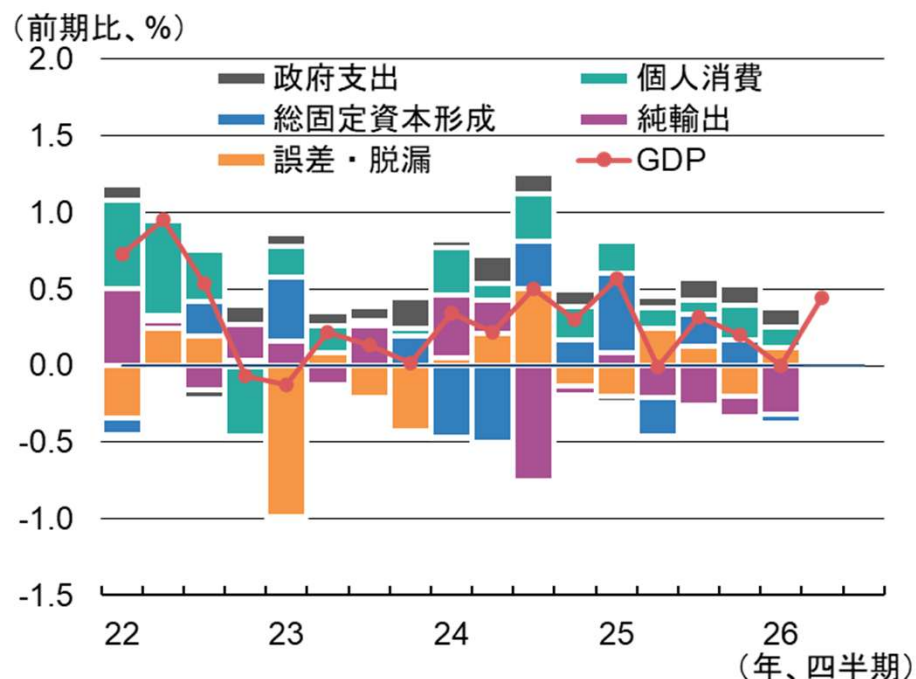
調査部 主任研究員

土田 陽介

ユーロ圏景気概況① 景気は拡大している

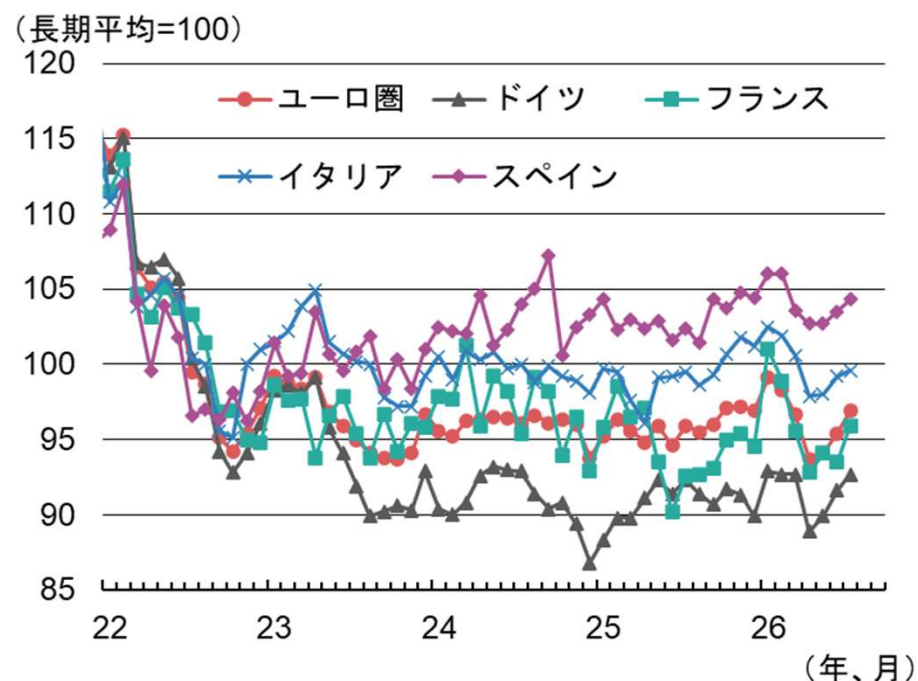
ユーロ圏の4-6月期の実質GDP(速報値)は前期比+0.4%と、前期(同横ばい)から反発した。主要国別には、スペインが同+0.7%と好調を維持したほか、フランスも同+0.2%と再びプラスに転じ、全体を牽引した。一方、最新7月の景況感指数は96.9と3カ月連続で上昇したが、力強さを欠いている。

実質GDP



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

景況感指数

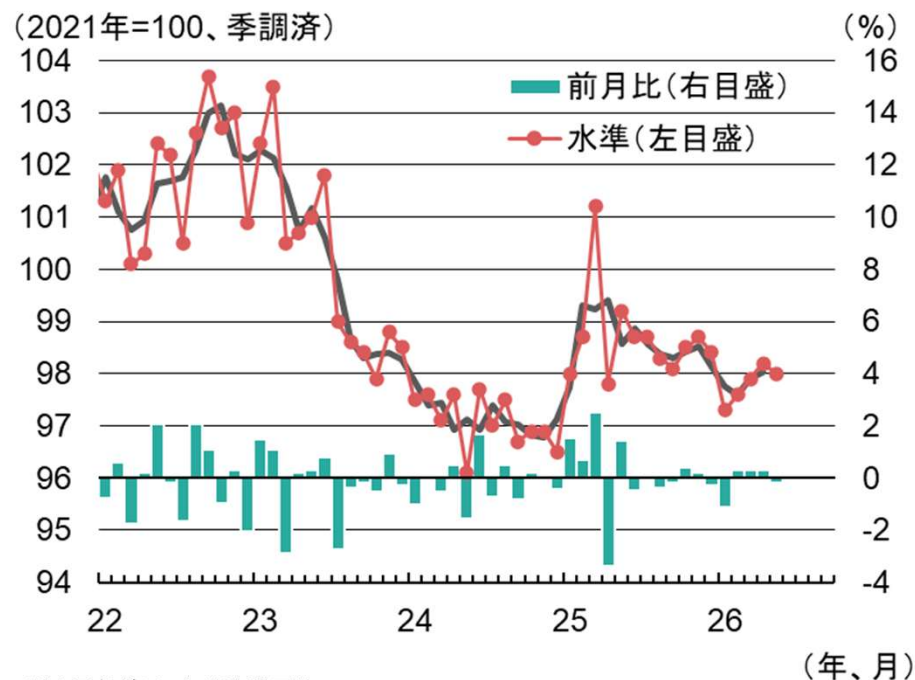


(出所) 欧州委員会ECFIN

ユーロ圏景気概況② 生産は低迷している

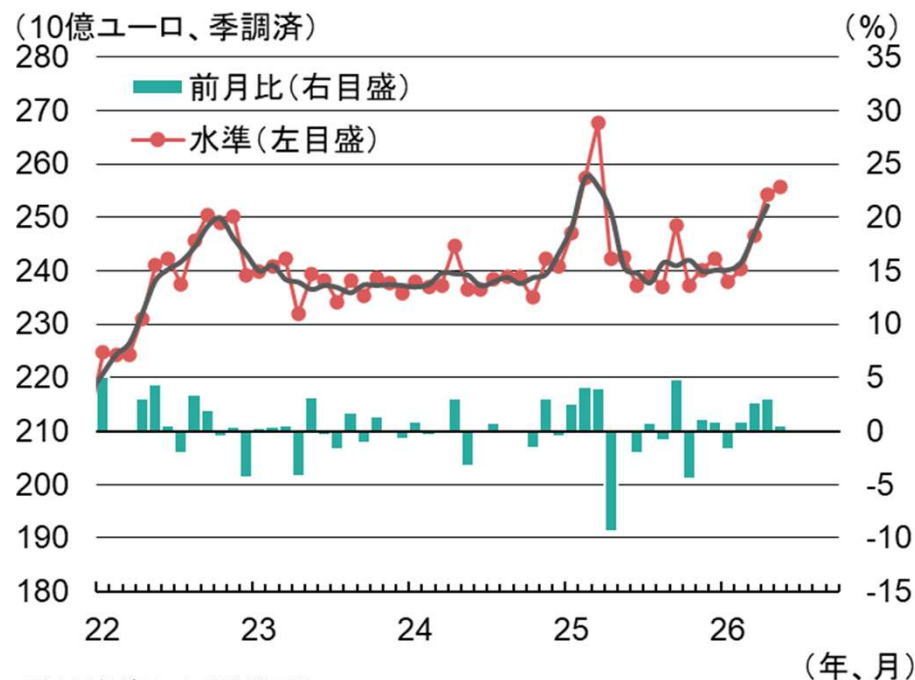
ユーロ圏の5月の鉱工業生産は前月比▲0.1%と減少に転じ、均した動きは頭打ち。中間財や耐久財が減産に転じて生産全体を下押しした。一方、同月の名目輸出は同+0.6%と増勢が鈍化したものの、均した動きは上向き。

鉱工業生産



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

名目輸出

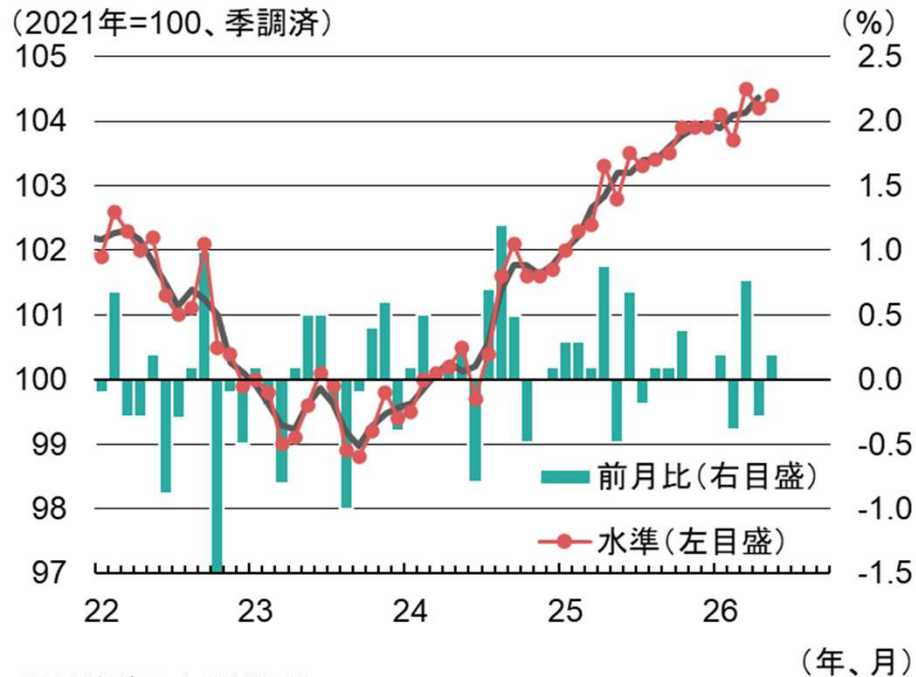


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況③ 消費は増加している

ユーロ圏の5月の小売数量は前月比+0.2%と再び増加し、均した動きは上向き。一方、6月の新車販売台数は前月比+1.5%の年率979万台と5カ月連続で増加し、均した水準は上向き。

小売数量



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

新車販売台数

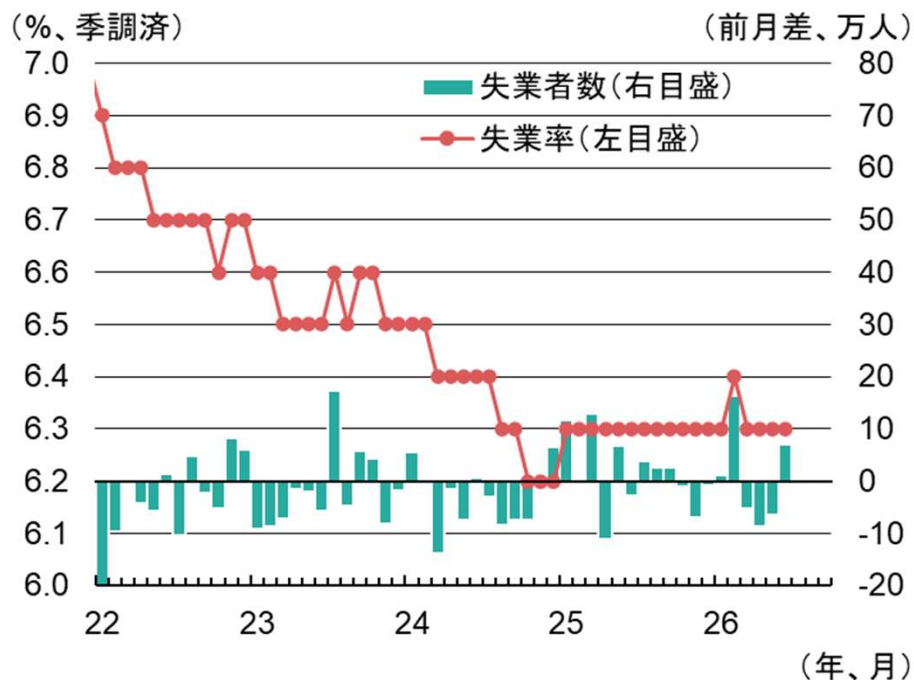


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) 欧州中央銀行 (ECB)

ユーロ圏景気概況④ 雇用は完全雇用の状態

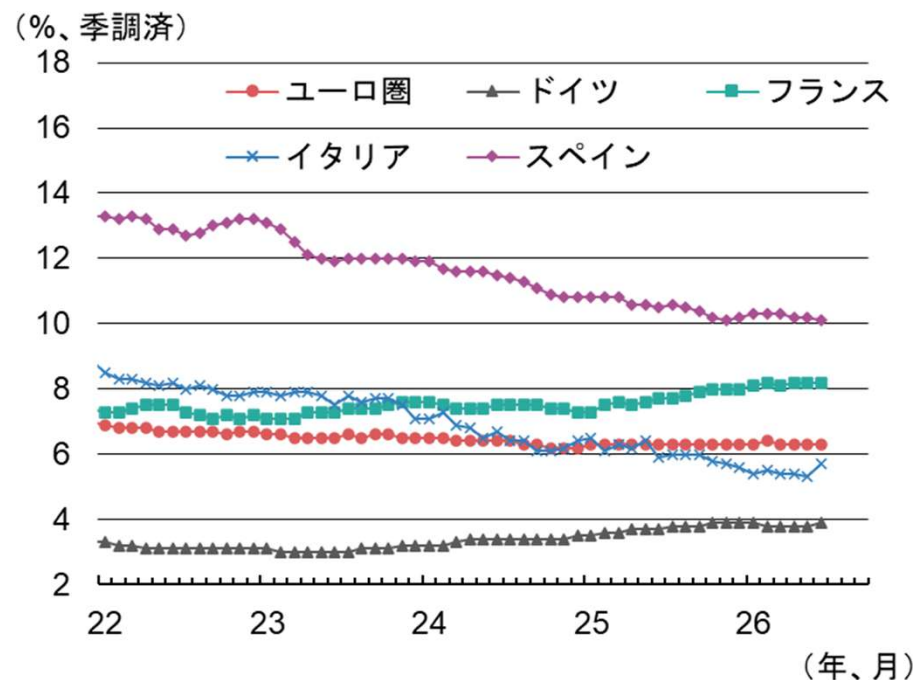
ユーロ圏の6月の雇用統計では、失業率が6.3%と4カ月連続で同じ水準となった一方、失業者数は前月差7.1万人増と2月以来の増加となった。失業率・失業者数とも一進一退が続いており、完全雇用の状態と判断される。失業率を主要国別に確認すると、ドイツやイタリアの失業率の上昇が目立つ。

失業率と失業者数



(出所) ユーロスタット

主要国別失業率

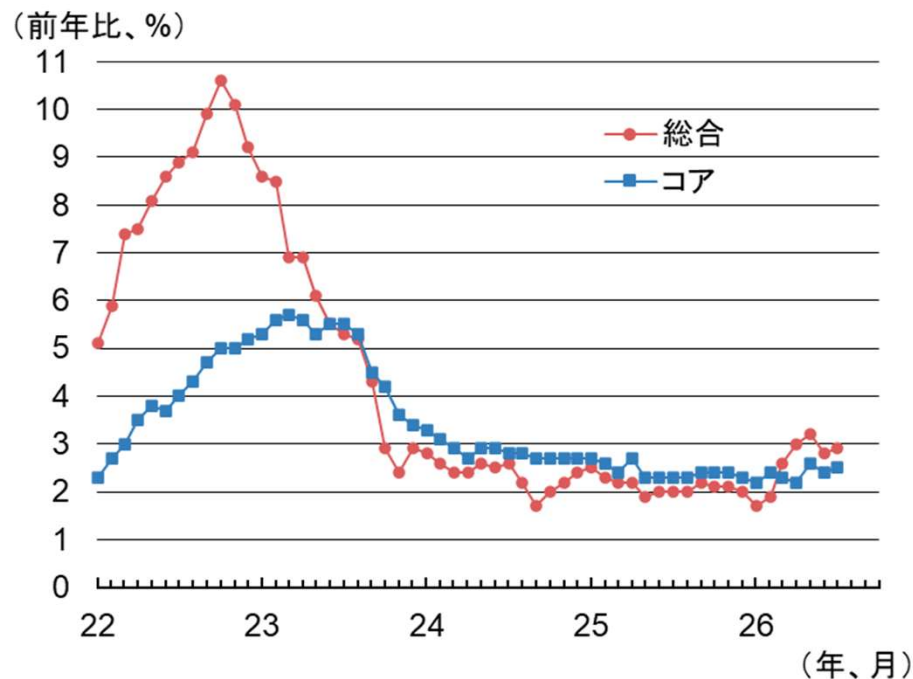


(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤ インフレは強含み

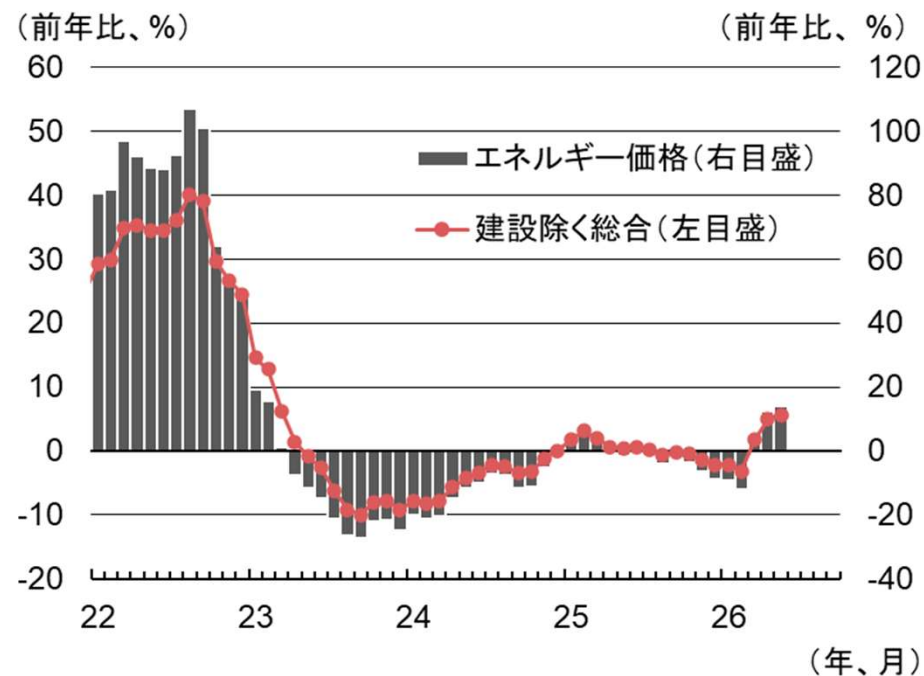
ユーロ圏の7月の消費者物価(総合ベース)は前年比+2.9%と、前月(同+2.8%)からわずかに上昇が加速した。また生産者物価(建設除く総合)は5月時点で同+5.7%と、2カ月連続で上昇が加速した。うちエネルギー価格は同+13.9%と高い伸びとなった。

消費者物価



(出所) ユーロスタット

生産者物価

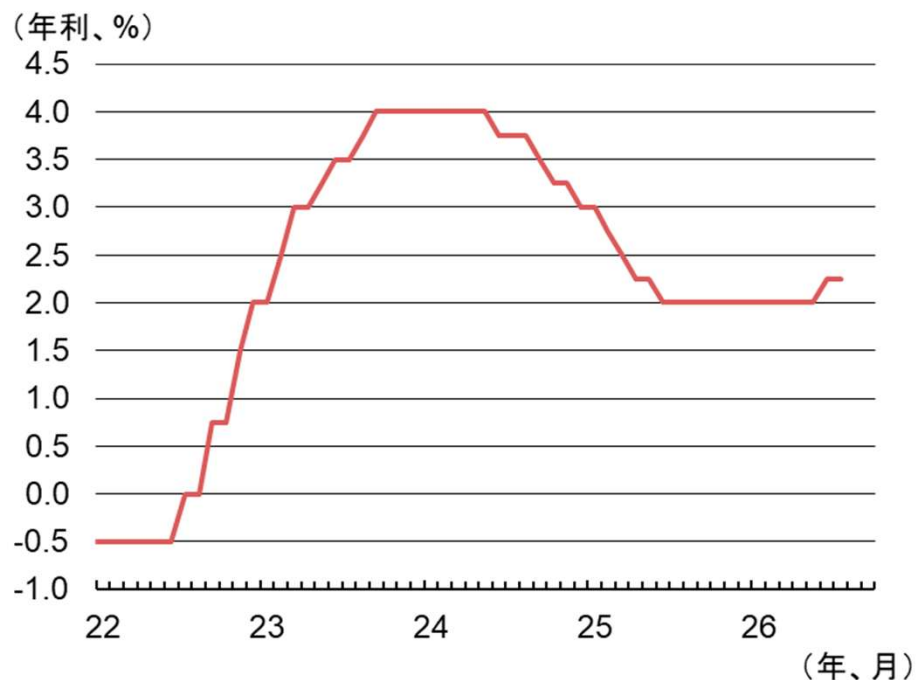


(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥ ECBは7月理事会で金利据え置き

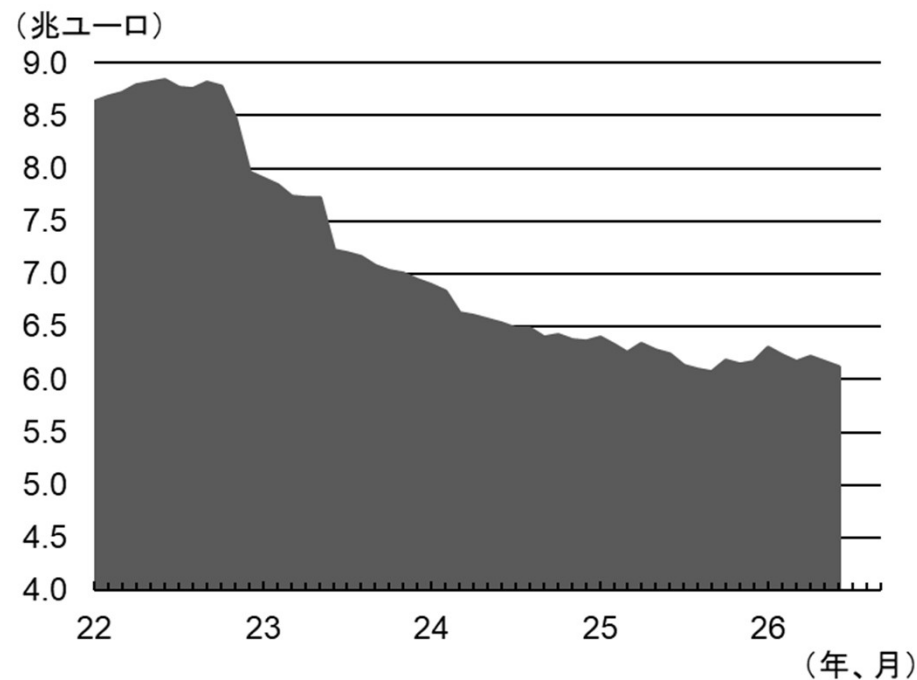
欧州中央銀行(ECB)は7月23日に政策理事会の結果を公表し、政策金利(預金ファシリティ金利)を年2.25%で据え置いた。イラン発のエネルギーショックの物価に対する影響を見定める方針。金融市場ではECBが今年のうちに残り2回程度の利上げを行うと見込んでいる。次回の理事会の結果は9月10日に公表される。

政策金利(預金ファシリティ金利)



(出所) ECB

ユーロシステムのバランスシート

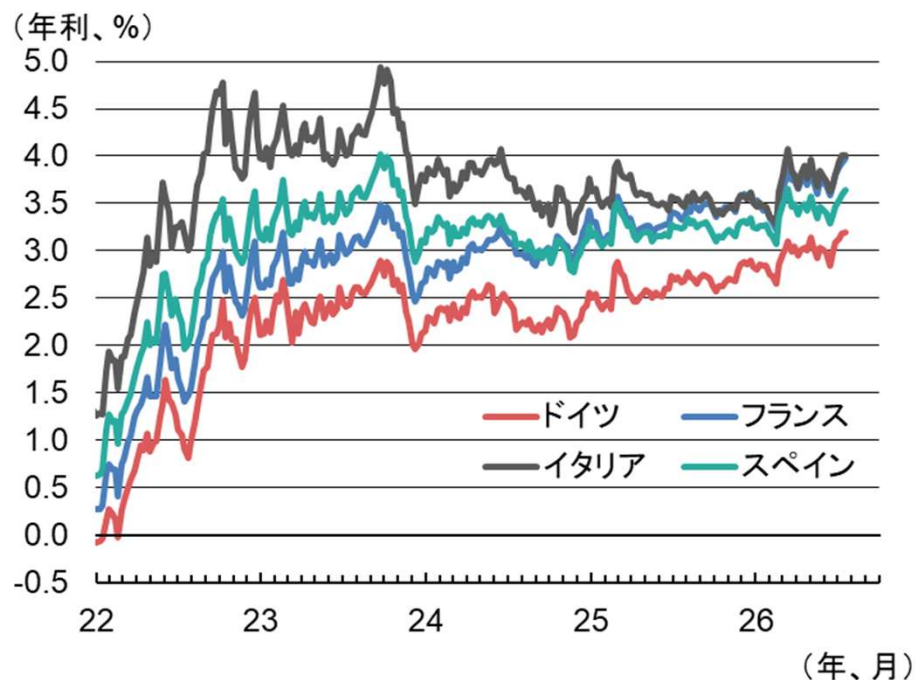


(出所) ECB

ユーロ圏景気概況⑦ 金利は上昇、株価も上昇

ユーロ圏主要国の7月の長期金利は上昇した。イラン情勢が緊張しインフレ期待が高まったことが金利の上昇要因となった。一方、同月の株価は上昇した。堅調な企業業績が相場を押し上げた。

10年国債流通利回り



(出所) 各国中銀

株価(EURO STOXX 50)



(出所) STOXX

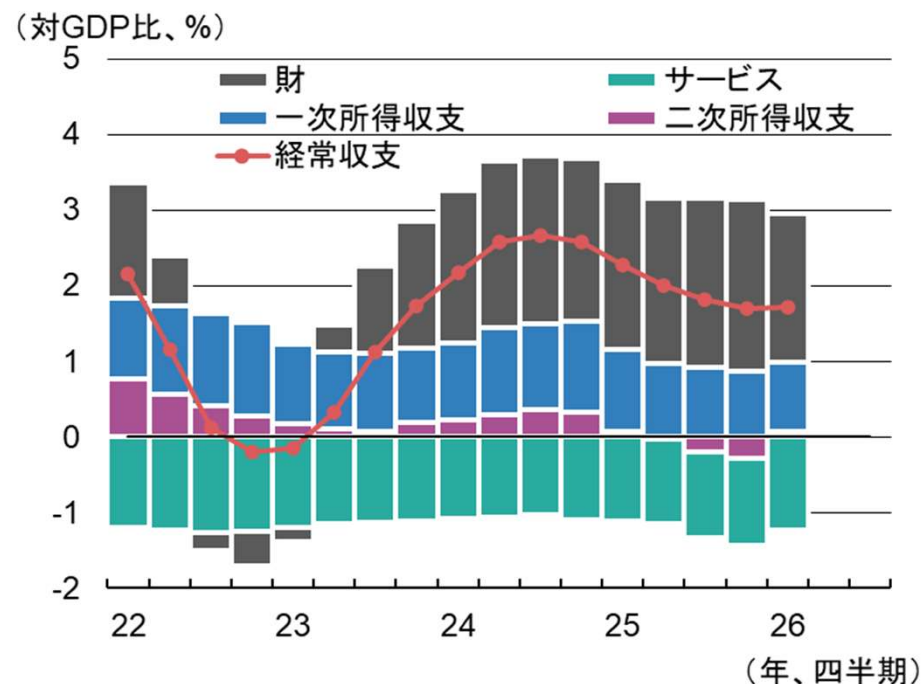
ユーロ圏景気概況⑧ ユーロは対ドル・対円で下落

EUの通貨ユーロの7月の相場は対ドル・対円で下落した。対ドルでは月末に米国がユーロ売り円買い介入を行ったためユーロ安ドル高が進んだ。一方、対円でもユーロ安円高となった。経常収支は、財収支(貿易)黒字が高止まりしており、実需面からのユーロ買い圧力は安定している。

ユーロ相場



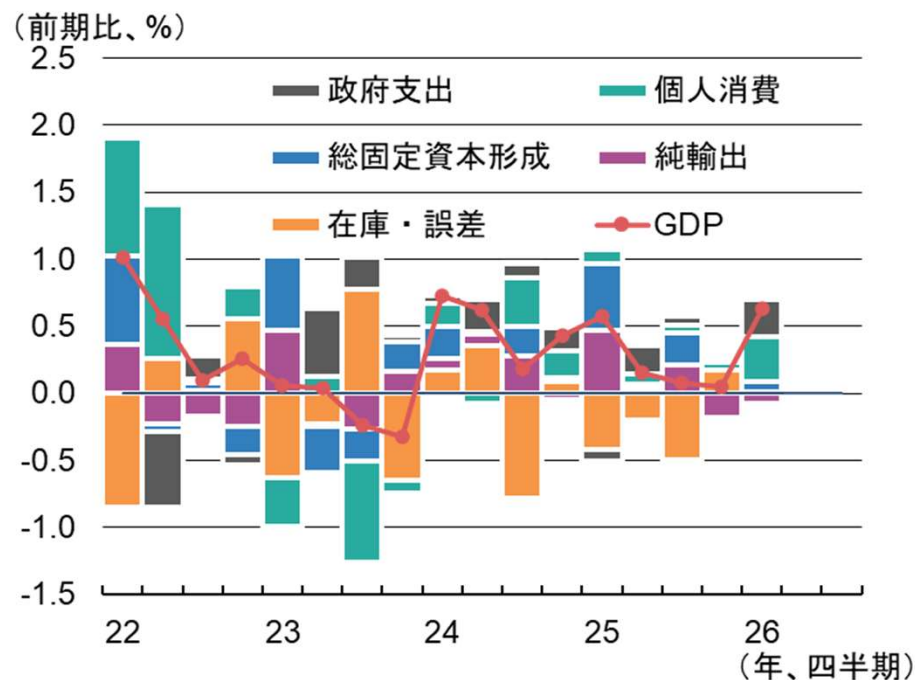
経常収支



英国景気概況① 景気は加速している

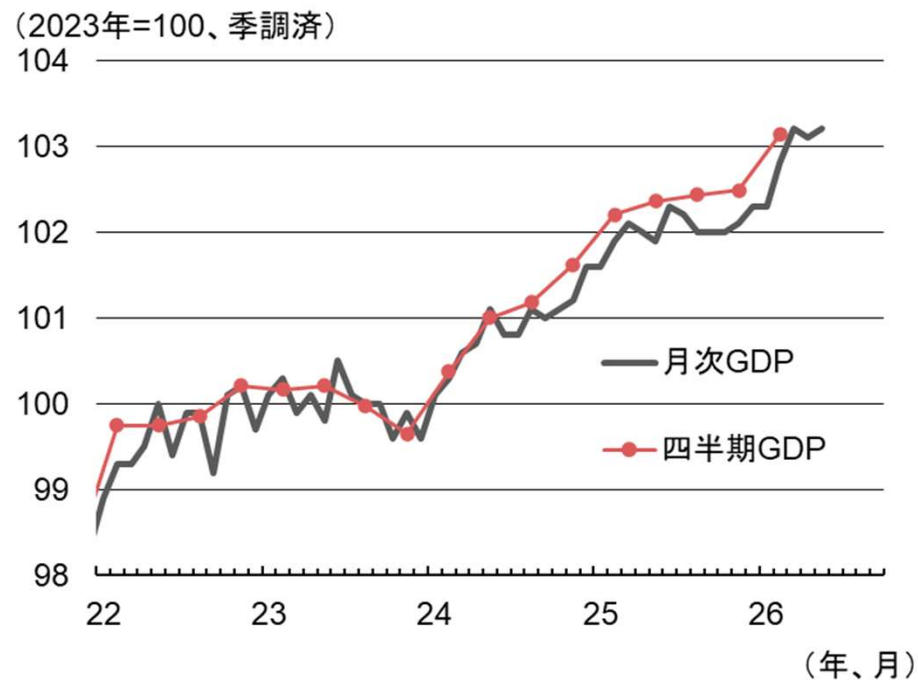
英国の1-3月期の実質GDP(速報値)は前期比+0.6%と、前年10-12月期(同+0.2%)から増勢が加速した。需要項目別には、個人消費が堅調に推移して景気の加速をけん引した。一方、5月の月次実質GDPは前月比+0.1%と再び増加した。

実質GDP



(出所) 英国立統計局 (ONS)

月次実質GDP

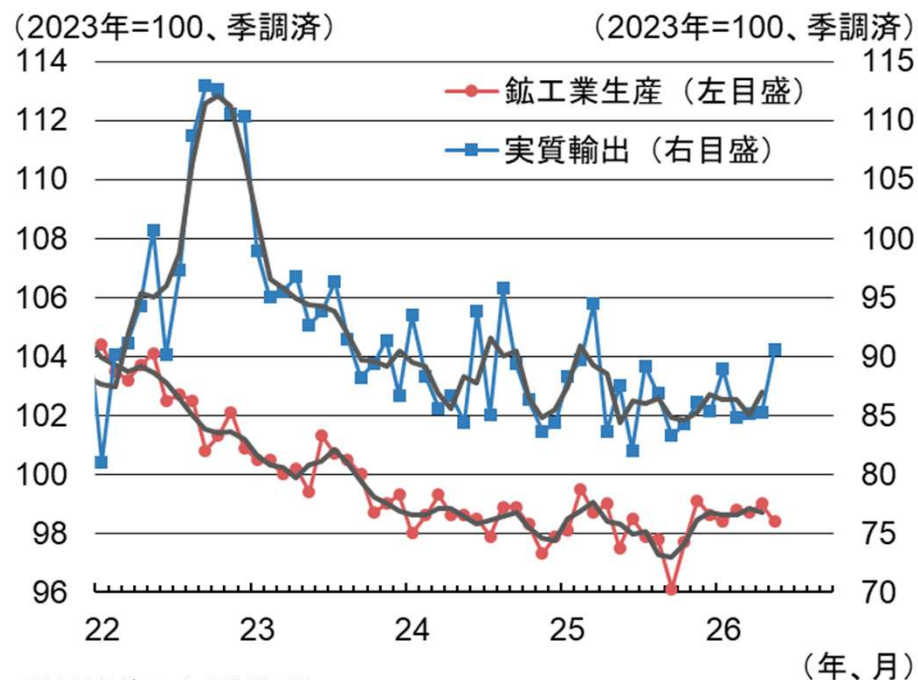


(出所) ONS

英国景気概況② 生産は低迷している

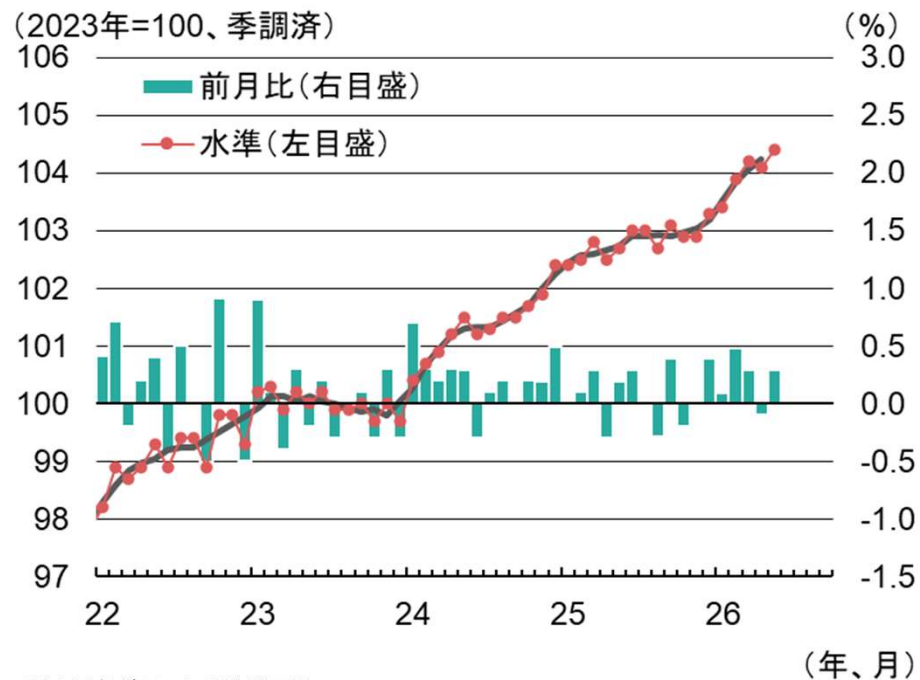
英国の5月の鉱工業生産は前月比▲0.6%と再び減少し、また同月の実質輸出は同+6.2%と増加が続いたが、いずれも均した動きは低位横ばい。他方で、同月のサービス業生産は同+0.3%と増加に転じ、均した動きは上向き。

鉱工業生産と実質輸出



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

サービス業生産

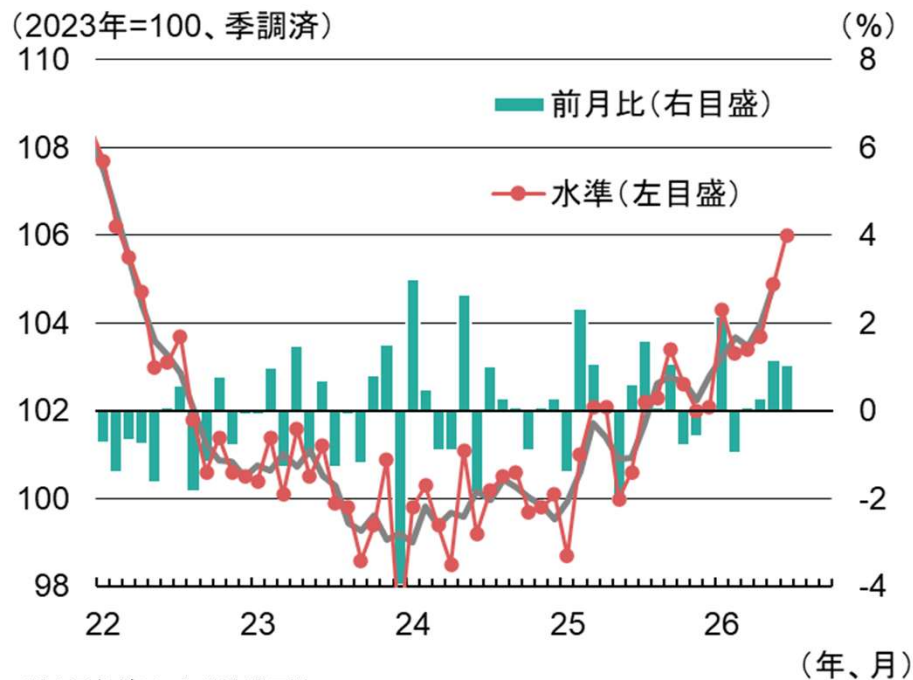


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

英国景気概況③ 消費は回復している

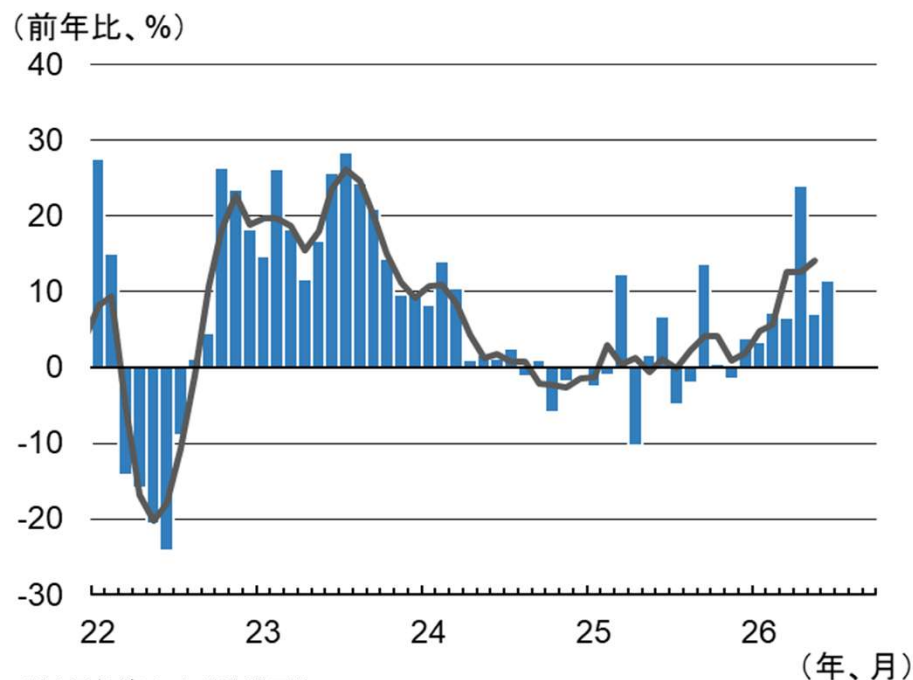
英国の6月の小売数量(除く石油)は前月比+1.0%と3カ月連続で増加し、均した動きは上向き。また同月の新車販売台数(乗用車)は前年比+11.4%と前月(同+7.4%)から増勢が加速し、均した動きは堅調を維持。市場規模は年率211万台レベル。

小売数量



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

新車販売台数(乗用車)

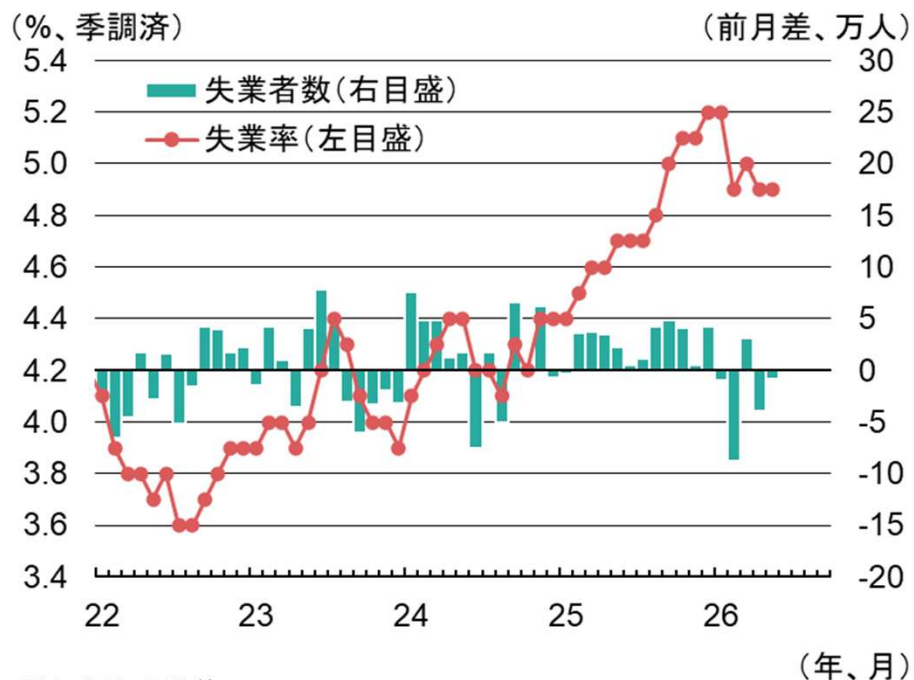


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) 英国自動車工業会 (SMMT)

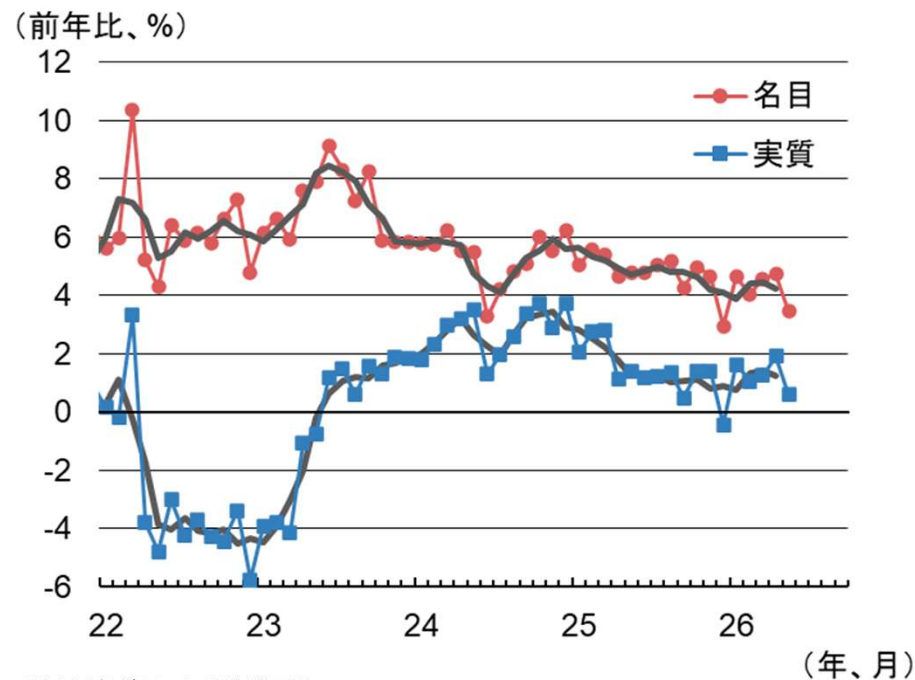
英国景気概況④ 雇用は悪化が一服

英国の5月の雇用統計では、失業率(3カ月移動平均)が4.9%と2カ月連続で同じ水準となった一方、失業者数は前月差0.8万人減と2カ月連続で減少したが、雇用情勢の悪化は一服しているもよう。一方、賃金の増勢は、物価変動の影響を除いた実質ベースだと前年比1%台前半まで鈍化した。

失業率



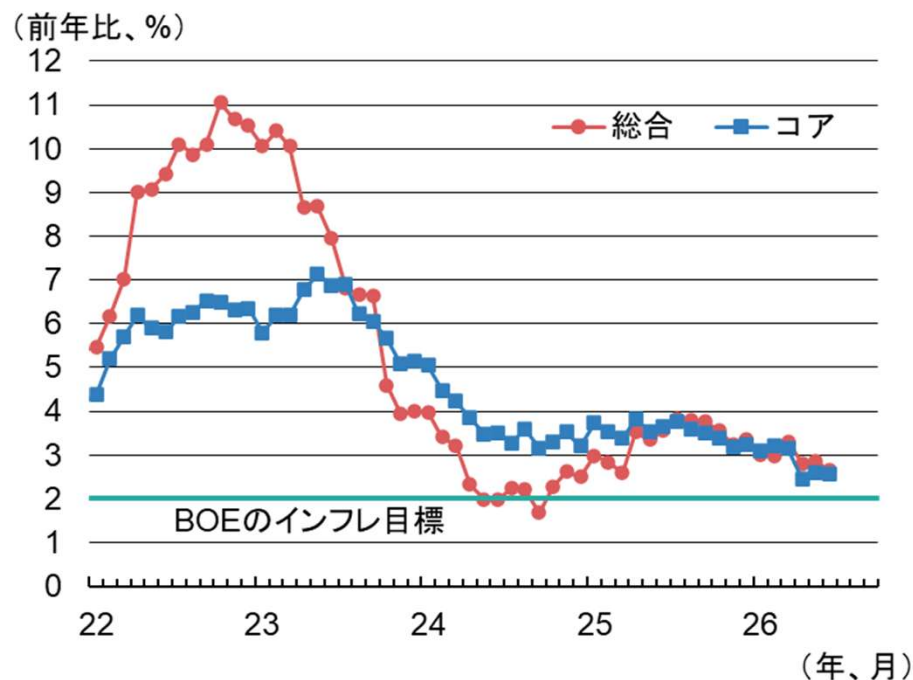
平均賃金(週給)



英国景気概況⑤ インフレは横ばい圏

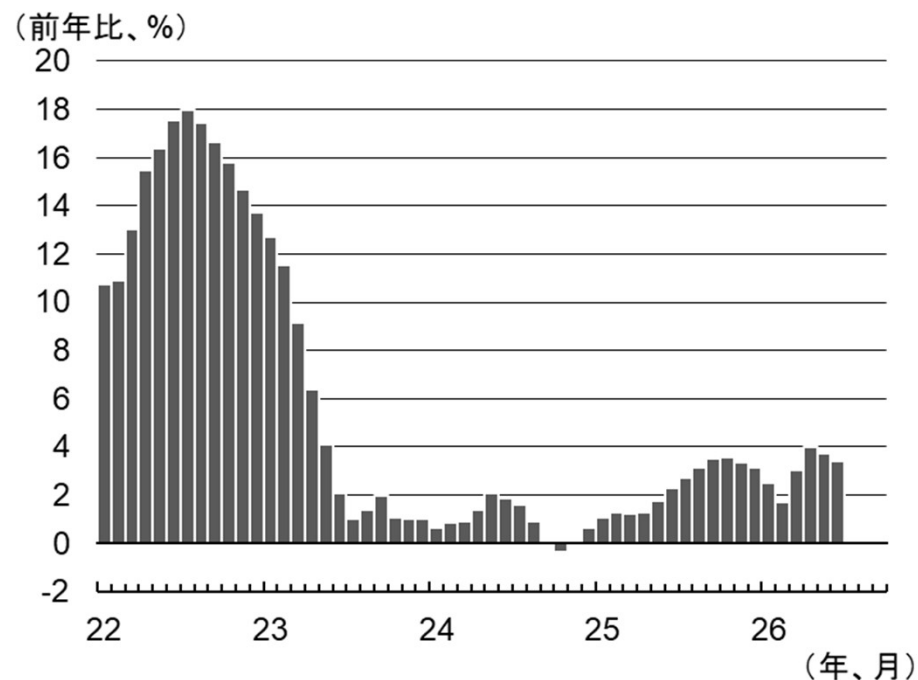
英国の6月の消費者物価は、総合ベースも変動の激しい項目を除いたコアベースも前年比+2.6%にとどまり、伸びは前月からほぼ横ばい。一方、同月の生産者物価(産出ベース)は同+3.4%と2カ月連続で伸びが鈍化した。イラン情勢の緊迫化に伴う燃料価格の高騰の影響は川上部門でもまだ限定的なまよう。

消費者物価



(出所)ONS

生産者物価(産出ベース)

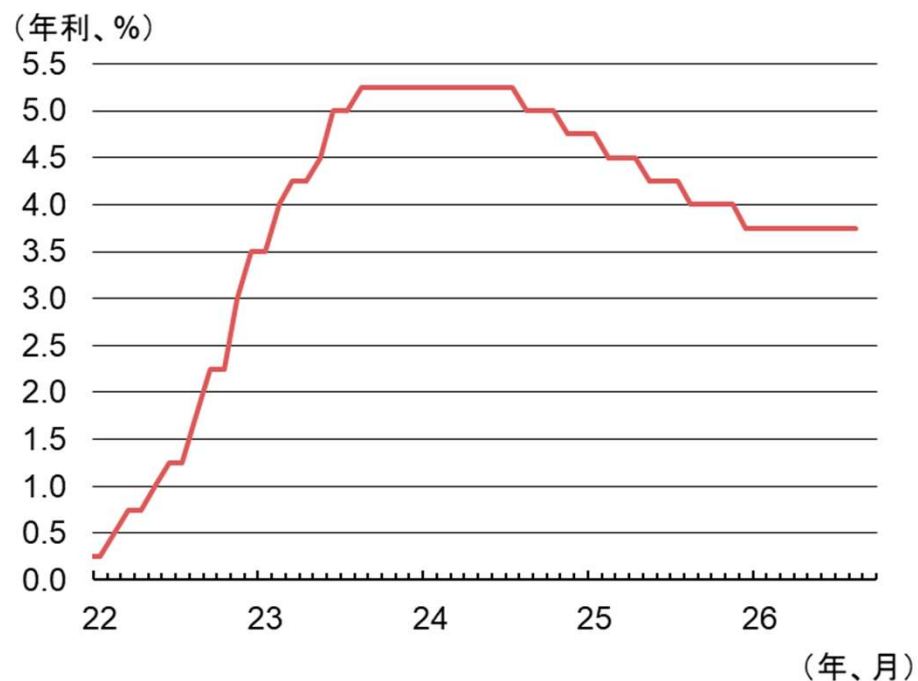


(出所)ONS

英国景気概況⑥ BOEは7月委員会で金利を据え置き

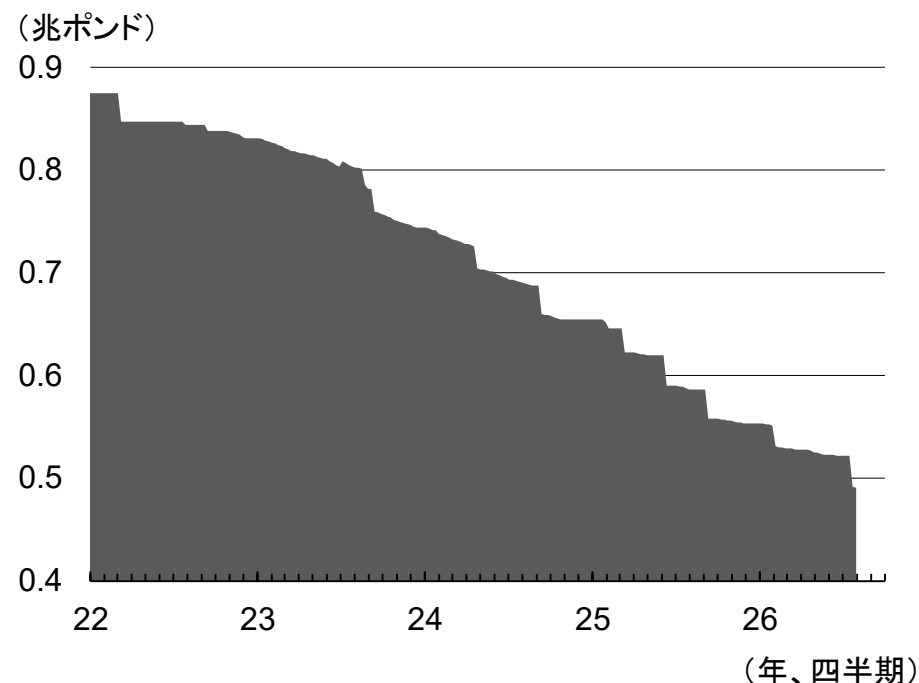
イングランド銀行(BOE)は7月30日に金融政策委員会(MPC)の結果を公表し、政策金利であるバンクレートを年3.75%に据え置いた。BOEは物価動向を注視しているが、エネルギー価格の安定を受けて追加利上げに慎重な姿勢を堅持している。次回のMPCの結果は9月17日に公表される。

政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

BOEの国債保有高

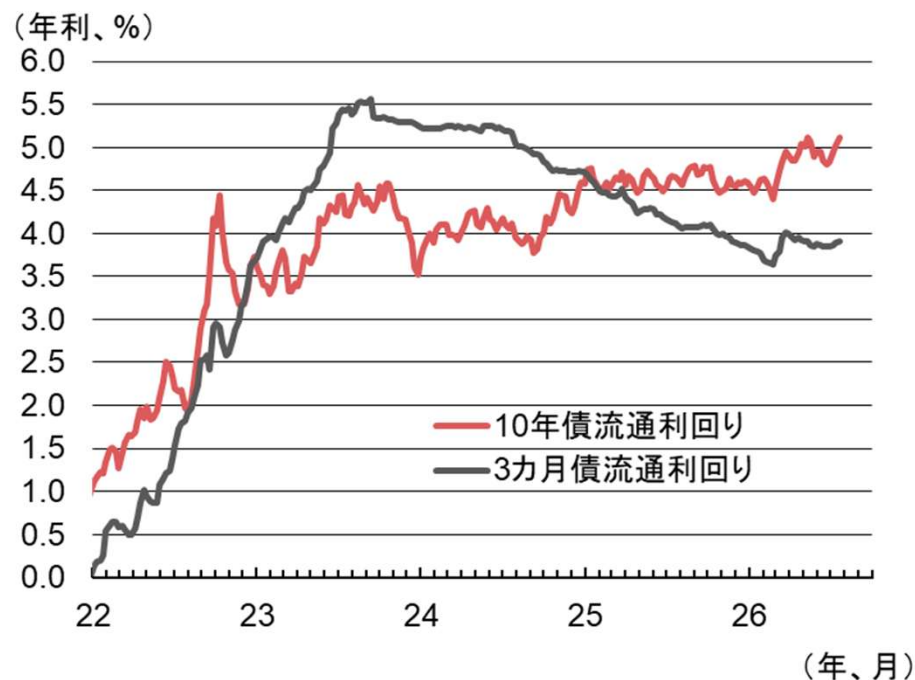


(出所)BOE

英国景気概況⑦ 金利は上昇、株価も上昇

英国の7月の長期金利は上昇した。イラン情勢が緊張しインフレ期待が高まったことが金利の上昇要因となった。一方、同月の株価は上昇した。堅調な企業業績が相場を押し上げた。

長短金利(10年債と3カ月債)



(出所) BOE

株価 (FT30指数)



(出所) Financial Times

英国景気概況⑧ ポンドは対ドルで上昇、対円で下落

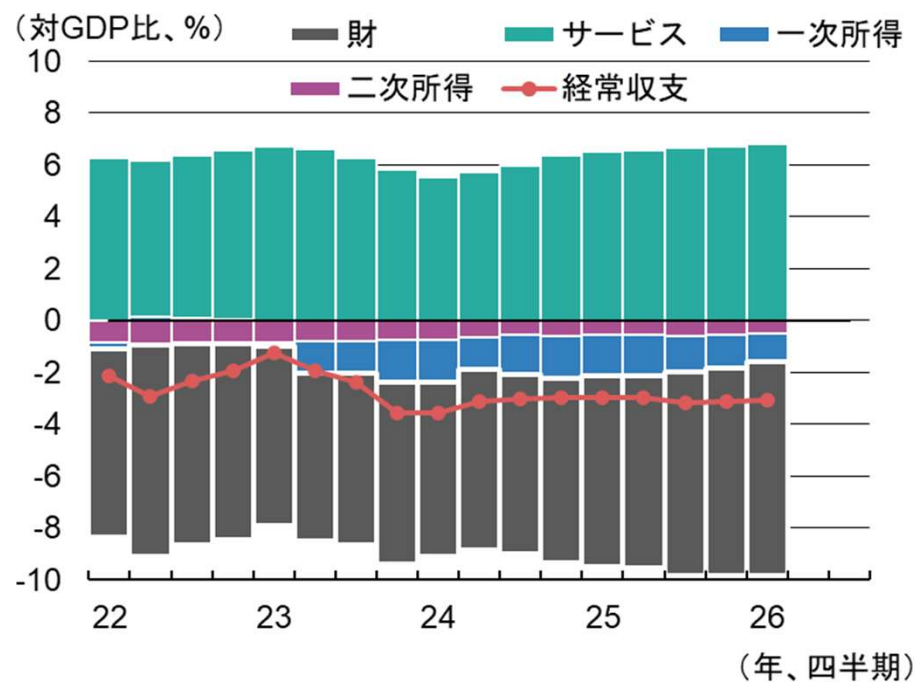
英国の通貨ポンドの7月の相場は対ドルで上昇、対円で下落となった。対ドルでは、バーナム新首相が就任したことへの期待からポンド買いが先行した。一方、対円では、月末の米国と日本による円買い介入を受けてポンド安となった。経常収支は、名目GDPの2%を超える赤字が定着しており、実需面からのポンド買い圧力は弱い。

ポンド相場



(出所) BOE

経常収支



(出所) BOE、ONS

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 土田陽介

TEL: 03-6733-1628 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー